

C-53 服飾のムードを表現する又色配色の研究 (オノ報)

サンリッチ研究所 吉川和志、上戸女短大 石川啓子

目的 女性服飾の色彩企画に合理的な根拠を興えるため、色々な服飾のもつムードを表現する形容詞と又色配色との関係を明らかにする。

方法 女性服飾の各種の用途に要求されるムードに関する形容詞を2語選んで刺戟語とした。又色配色は、オストワルト表色系の10色相と茶、オリーブとの、淡い、冴えた、濃い各3トーンに、無彩色の白、灰、黒を加えて38色を選び、これを互に組合わせて28配色を得た。各刺戟語の感じのする配色を回答者に選ばせ、回答票に自記させた。本研究の調査は、1962~70年間に、4回、延1,000人余の回答者について実施したが、今回の発表は、1963年12月(冬)に、東京と大阪の若い女性と主婦 211人について実施した、オノ回の研究結果に関するものである。

結果と考察 次が認められた。

1. 1配色ありの答の数の級別に該各配色数の分布を刺戟語毎に求めると、左に偏つたL型か山型の分布曲線を得た。小数の配色に多数の答が集中することが認められた。
2. 例之ば、情熱的なムードを表現する配色は、冴えた赤と冴えた黄、青、黄緑、橙、緑、紫、青緑、または、ピンク、黒、白との組合わせ、ロマンチックな配色は、ピンクと淡黄、淡青、淡黄緑、淡橙、淡緑か白との配色または淡紫と濃紫、淡緑、淡青との配色であることなどが確かめられた。
3. 今回の結果とオノ回の研究結果との相関係数は、情熱的な配色では0.903、ロマンチックな配色では0.845など、調査時期と回答者が異なるのに相関性が高く、信頼度が確かめられた。